●ギンリョウソウ（*Monotropastrum humile*）とは

本堀技術士事務所

　ギンリョウソウは、ツツジ科ギンリョウソウ属に属する多年草です。植物であるのに大部分が白いのは、葉緑体を欠いているためで、光合成も行う事が出来ません。また土壌から栄養分（有機物）を得る能力もありません。そのため、菌類（担子菌類）を根の部分に住まわせて「モノトロポイド菌根」という構造体を作り、菌類から栄養分を奪う事で生活しています。この様な植物の事を「菌従属栄養植物」と言います。このモノトロポイド菌根を形成する菌類は、周囲の樹木の根とも菌根（外生菌根）を形成し、栄養分のやり取りをしています。故に、ギンリョウソウは菌根を形成する菌類を介して樹木から菌類に送られた光合成生産物をも受け取っている可能性があるのです。

●ギンリョウソウ－つぼみから開花－

本堀技術士事務所

地下から伸びた花茎の先端に形成されたつぼみ

開花した状態

●満開のギンリョウソウ

本堀技術士事務所

一本の花茎の先端には一輪の花が咲く

花はうつむき気味に咲く

●ギンリョウソウの雄蕊と雌蕊

本堀技術士事務所

開花して間もない花（雄蕊と雌蕊がくっついている）

雌蕊の先端は青みがかった平板状

●受粉後のギンリョウソウ

ハナバチやハエなどの訪花により受粉が行われると、雌蕊の部分が肥大化して液果が形成されます。

●ギンリョウソウの液果

本堀技術士事務所

液果は直径1cm程度の白色球形で、内部には果肉と種が詰まっています。この液果はモリノチャバネゴキブリが好んで捕食する事が知られており、捕食後のモリノチャバネゴキブリが移動先で糞をする際に種が散布されます。つまり、ギンリョウソウは液果をモリノチャバネゴキブリに提供する代わりに種子を遠方に散布してもらうという共生関係にあると言えます。